Ⅴ．研究の全体構造図

【研究主題】

社会認識を深め、社会とかかわり続ける力を育む社会科学習の創造

研究副題　問題解決的な学習を通して、社会と自分との関わりを考えさせる授業

【目指す子ども像】

・社会的事象を深く学び、社会認識を深めていく子ども

・主体的な学びを通して、社会とかかわり続ける子ども

【研究仮説 1】

子どもの社会認識を形成するためのプロセスを意識した単元構成を工夫することで、学びを通して主体的に社会にかかわり続ける子どもを育成することができるだろう。

【研究仮説 2】

社会的事象から「なぜ？」「どうして？」と疑問をもたせ、探究する授業構成を工夫することで、社会的事象を深く学ぶ子どもを育成することができるだろう。

【研究仮説 3】

子どもの実態を踏まえた学習の中で一人一人の学びを的確に評価することで、自分の考えを深め、社会に関心をもち続ける子どもを育成することができるだろう。

【研究内容１】

子どもの社会認識を形成していく単元構成の工夫

①社会認識を獲得するプロセスを意識した単元構成の工夫

②身近な素材を教材化し、学びを通して社会とかかわる場の設定

【研究内容２】

「なぜ？」「どうして？」と疑問をもたせ、社会的事象を探究する授業構成

①問いや資料・教材の吟味

②社会的事象を探究し、捉えなおす（再構成する）場の工夫

【研究内容３】

学びを深め・子どもを伸ばす学習の評価

①評価の種類と活用

②思考をまとめ・思考の伸びを見るために「書く」

【石社振　研究内容1】

子どもが自分事としてとらえ、主体的に関わろうとする教材・単元構成の工夫

①身近な素材の教材化による学習意欲の向上

②社会認識を深めるために獲得させるべき知識・技能等を整理した単元計画の作成

【石社振　研究内容2】

問いを考えさせる資料提示の工夫。対話を通した再考と発信の場を設定した学習活動

①子どもが疑問をもてるような資料提示の工夫。

②再考・発信に繋がる他者との対話場面の設定と工夫

【石社振　研究内容3】

子ども一人ひとりの伸びを的確に見取る評価と指導

①学習活動の中で伸ばす力を明確にした評価

②終末段階に子どもの変容や再構成したことを見取るためのふりかえり